

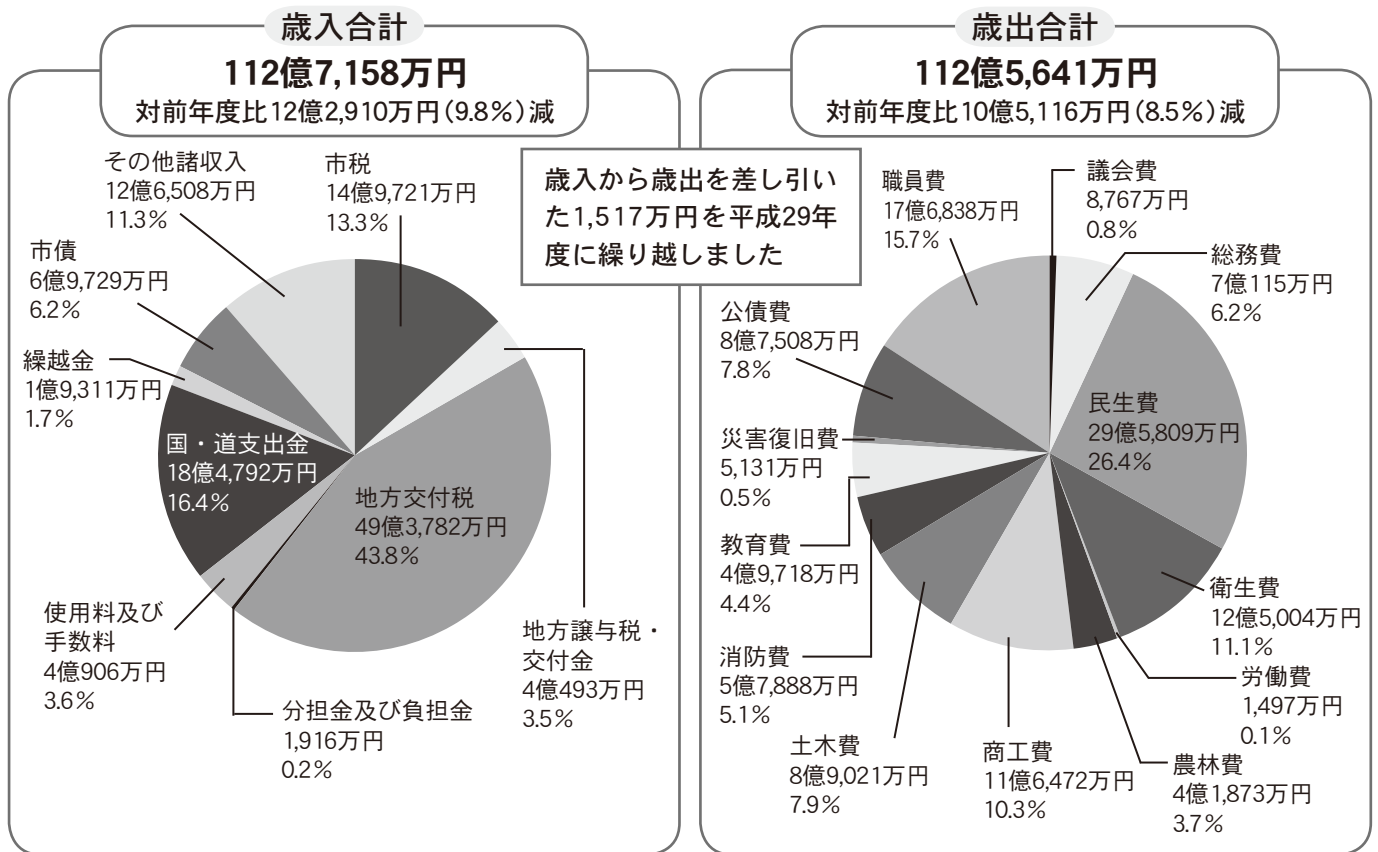
平成
28年度

決算の状況をお知らせします

市は、皆さんから納めていただいた市民税、固定資産税などの税金や国・北海道から受ける交付金などを基に予算を組み立て、皆さんが安心して暮らすことのできる住みよいまちづくりに取り組んでいます。今月は、市の予算がどのように使われたのか、平成28年度の決算状況をお知らせします。

一般会計 福祉や教育など、市の基本的な事業の会計です。

歳入と歳出の差引額1,517万円から平成28年度繰越明許費1,368万円と前年度の実質収支額1億4,964万円を差し引いた結果、1億4,815万円の赤字となりました。



◆市民1人あたりの歳入と歳出◆

※平成29年3月31日現在の人口(住民基本台帳・14,288人)で割って算出

歳 入			歳 出		
市税	皆さんが納めた税金	104,788円	議会費	議会運営にかかる費用	6,136円
地方譲与税・交付金	消費税の一部として交付されたお金や自動車取得税などから分配されたお金など	28,341円	総務費	地域振興や庁舎管理、情報化推進などの費用	49,073円
地方交付税	一定のサービス水準を確保するため、人口や税収などに応じて国から配分されるお金	345,592円	民生費	高齢者、障がい者、児童などの福祉の費用	207,033円
分担金及び負担金	保育料などの特定の利益を受ける方が負担されたお金	1,341円	衛生費	ごみ処理、保健衛生などの費用	87,489円
使用料及び手数料	施設の使用料や住民票の手数料など	28,630円	労働費	雇用や労働環境向上などに対する費用	1,048円
国・道支出金	市の事業に対し、国や道から交付されたお金	129,334円	農林費	農業振興や林業振興などの費用	29,306円
繰越金	前年度から繰り越されたお金	13,516円	商工費	商工業振興や観光などの費用	81,517円
市債	国や金融機関から借り入れたお金	48,802円	土木費	道路、河川、公園などの費用	62,305円
その他諸収入	寄附金や財産収入など	88,541円	消防費	消防、救急活動の費用	40,515円
			教育費	小中学校、生涯学習振興などの費用	34,797円
			災害復旧費	災害が発生したときの復旧費用	3,591円
			公債費	国や金融機関などから借り入れたお金の返済費用	61,246円
			職員費	市職員の給与や退職金	123,767円

特別会計

一般会計とは別に、独立して経理を行う会計です。6つある特別会計に赤字の会計はありませんでした。

会計名	予算額	歳入	歳出	歳入歳出差引額
奨学資金	3,994万円	4,339万円	3,991万円	348万円
国民健康保険	27億5,838万円	26億1,187万円	26億714万円	473万円
下水道事業	6億2,567万円	6億2,383万円	6億2,383万円	0円
介護保険事業	18億6,436万円	18億2,107万円	17億8,197万円	3,910万円
介護サービス事業	1億2,363万円	1億1,987万円	1億1,987万円	0円
後期高齢者医療	2億7,075万円	2億6,580万円	2億6,553万円	27万円
合計	56億8,273万円	54億8,583万円	54億3,825万円	4,758万円

企業会計

民間企業のように、利用料金などの収益で運営する会計です

会計名	収支区分	収入	支出	収支差引額
病院事業	収益的収支	19億2,601万円	20億8,088万円	▲1億5,487万円
	資本的収支	1億9,677万円	3億938万円	▲1億1,261万円
水道事業	収益的収支	5億1,167万円	4億8,262万円	2,905万円
	資本的収支	2億2,633万円	3億2,765万円	▲1億132万円

市の財産

市が市民の皆さんに対して、さまざまなサービスを提供するために持っている土地や建物、そのほかの財産は次のとおりです。平成29年3月31日現在

○基金

区分	金額
一般会計	
財政調整基金	8億5,298万円
減債基金	5億4,752万円
地域振興基金	5億4,359万円
公共施設等整備管理基金	5,009万円
福祉基金	3億486万円
桜ヶ丘霊園基金	710万円
産業振興基金	1億5,707万円
学校教育施設整備基金	400万円
生涯学習・スポーツ振興基金	8,255万円
学校基金	0円
特別会計	
奨学基金	1億3,497万円
国民健康保険基金	1億6,828万円
介護保険基金	2億8,388万円
保健福祉施設基金	3,328万円

○土地・建物

区分	面積
土地	
公の施設	440万6,234㎡
山林	522万7,349㎡
その他	95万3,914㎡
計	1,058万7,497㎡
建物	25万3,656㎡

○有価証券・出資による権利

区分	金額
有価証券(株券)	4,224万円
出資金・出えん金	7,527万円

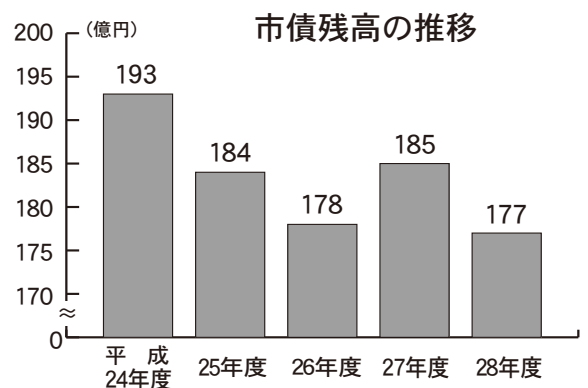
○北海道市町村備荒資金組合納付金

区分	金額
普通納付金	1億1,608万円
超過納付金	11億1,103万円
合計	12億2,711万円

市債

市債とは、市の借金のことです。一般、特別、企業各会計の市債残高の合計は、右のグラフのとおりです。

区分	平成28年度末現在	平成29年度元利償還金
一般会計	99億3,674万円	8億7,083万円
下水道事業特別会計	38億8,361万円	4億9,313万円
介護サービス事業特別会計	5億4,753万円	5,796万円
病院事業会計	7億3,931万円	2億7,421万円
水道事業会計	26億600万円	2億5,166万円
合計	177億1,319万円	19億4,779万円



都市計画税の使途状況をお知らせします

■都市計画税の使途内訳

区分	金額(千円)	構成比(%)
下水道整備事業	16,754	2.8
地方債償還額(※)	572,366	97.2
合計	589,120	100.0

※街路、公園、下水道事業のために借り入れた地方債償還額

■都市計画事業等の財源内訳

区分	金額(千円)	構成比(%)
都市計画税	59,467	10.1
地方債	7,700	1.3
一般財源等	516,480	87.7
その他	5,473	0.9
合計	589,120	100.0

都市計画税は、街路、公園、下水道整備などの都市計画事業等の費用に充てるため課税される目的税で、都市計画区域のうち、用途地域内に土地や家を所有している方に、その資産の価格に応じて納めていただく税金です。

平成28年度の都市計画税(5,947万円)は、左記のとおり都市計画事業等(5億8,912万円)の財源として活用しました。

平成28年度 主な事業の決算額

事業名	決算額	事業の成果の内容
コミュニティセンター整備事業	1,868万円	上芦別多目的研修センター外壁の老朽化に伴い、改修工事を実施し、地域住民が利用しやすいコミュニティセンターの運営を図りました。
ごみ処理事業	2,478万円	芦別市が加入する中空知衛生施設組合において、3市2町による広域共同処理を行うことにより、適正・円滑な処理が図られました。
農業振興対策事業	1,550万円	G P S ガイダンスシステムを活用した先進的な農業機械のモデル的な導入に対して助成を行い、多様な経営体の育成・確保が図られました。
国営かんがい排水事業	1,279万円	芦別北部地区国営かんがい排水事業により整備した施設を活用し、安定的な農業経営を図るため、国営土地改良事業芦別北部地区に係る地元負担金を支払いました。
森林環境保全整備事業	3,630万円	市内民有林における森林資源の確保、地元木材の価値の向上、民有林林業の振興及び京都議定書目標達成計画に伴う二酸化炭素の吸収源対策を図りました。
道の駅等整備事業	2,776万円	まちづくりの拠点である道の駅の外構整備工事を実施し、機能強化を図りました。
道路維持改良事業	1億5,825万円	南2条東2丁目22線ほか9路線の改良工事などを実施し、段差の解消及び高齢者や障がい者に配慮した歩車道の整備を図りました。
橋りょう維持改良事業	3,375万円	快適・安全な橋りょう環境の創出により、歩行者の安全と車両等の円滑な運行を確保するため、見返橋の改修工事及び三角橋の架替実施設計を実施しました。
除排雪事業	2,336万円	既存の除雪トラックグレーダの老朽化により、除排雪作業に支障のないよう更新しました。
公営住宅整備事業	1,062万円	公営住宅ひばり第二団地の屋根ふき替え工事を実施し、住宅環境の充実を図りました。
消防・救急無線デジタル化事業	1億2,088万円	平成28年6月からの消防・救急無線デジタル化に対応するため、消防・救急無線設備をアナログ式からデジタル式へと更新しました。
中学校施設整備事業	1,544万円	芦別中学校の3線校舎教職員トイレ改修工事及び啓成中学校の給水管部分取替工事を実施し、教育環境の改善を図りました。
図書館施設整備事業	911万円	図書館LED照明設備の改修工事を実施し、図書館施設の充実を図りました。
災害復旧事業	6,342万円	平成28年8月に発生した豪雨による災害復旧を迅速に行うため、専用排水路、林道・林業専用道、道路橋りょうの修繕及び河川の復旧工事などを実施しました。

平成28年度寄付金の状況を公表します

■受領した寄附金の状況

区分	件数	金額
個人	2,171件	246,732,387円
企業・団体	5件	231,600円
合計	2,176件	246,963,987円

市には毎年、個人、企業・団体から多大なるご厚意のもと、多くの寄附金が寄せられています。善意で寄せられましたこの貴重な寄附金は、市のまちづくりの大きな支えとして、有効に活用させていただいており、皆様のご芳志に改めて感謝申し上げます。今後とも、皆様と「ふるさと芦別」の縁を大切に育んでまいりたいと考えておりますので、芦別の発展に温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■寄附金を活用した事業の運用状況

事業の種類	運用額	活用事業
まちづくり人材育成国際交流促進事業	1,824,913円	芦別市まちづくり人材育成国際交流促進事業補助金の一部として
滝里ダム地域振興事業	3,353,106円	滝里ダムオートキャンプ場管理運営費として
花と木・緑化推進事業	397,440円	花と木・緑化推進業務委託料の一部として
消防施設等整備事業	947,780円	消防活動費の一部として
合宿振興事業	382,752円	宿泊交流センターの扇風機及び洗濯機の購入費として
車両整備事業	2,212,986円	指定共用車等購入費の一部として
福祉事業	13,100,000円	総合福祉センターの屋上防水工事費及び管理運営費の一部として
農業担い手等育成事業	356,500円	農業経営基盤確立借入金償還利子補給金として
企業振興事業	41,038円	企業振興事業補助金の一部として
観光事業	2,072,520円	星の降る里観光宣伝事業等業務委託料の一部として
学校教育施設整備事業	3,695,000円	市内小学校の修繕料、大型4人用ブランコ購入費及び中学校施設整備工事費等の一部として
文化振興事業	1,172,374円	芸術文化活動費及び芸術文化交流館管理運営費の一部として
図書館整備事業	3,129,491円	図書館LED照明設備改修工事費の一部として
青少年健全育成事業	943,015円	スポーツ活動事業及び芦別っ子新聞発行事業等、全18事業に対する補助金として
スポーツ振興事業	157,033円	北海道ブロックバウンドテニス親善交流大会、芦別市民バスケットボール大会、全国小学生ソフトテニス大会に対する補助金として
合計	33,785,948円	

※上記運用に活用した以外の寄附金につきましては、基金として積み立て、後年度の事業に有効活用させていただくこととしました。

健全化判断比率と資金不足比率を公表します

平成19年6月に公布された「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」(財政健全化法)により、毎年度、健全化判断比率と資金不足比率を算定し、公表することが義務づけられています。

平成28年度決算に基づいて算定された芦別市の健全化判断比率は、財政再建に取り組まなければならない基準(早期健全化基準)を下回っています。

●平成28年度決算に基づく健全化判断比率

区 分	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
公表数値	—	—	8.2 (8.3)	98.3 (93.9)
早期健全化基準	14.32 (14.26)	19.32 (19.26)	25.0 (25.0)	350.0 (350.0)
財政再生基準	20.00 (20.00)	30.00 (30.00)	35.0 (35.0)	

※1 実質赤字比率または連結実質赤字比率がない場合は「—」と記載しています。

※2 ()内は平成27年度決算に基づく数値です。

1 実質赤字比率

標準的な収入に対する赤字額

赤字なし

一般会計等の赤字が標準的な収入に占める割合を示す指標です。

家計簿に例えると、世帯主の収入に対して赤字額が占める割合になります。

2 連結実質赤字比率

標準的な収入に対する各会計を連結した赤字額

赤字なし

全ての会計等の赤字が標準的な収入に占める割合を示す指標です。

家計簿に例えると、世帯主の収入の合計に対して家族全員の赤字額が占める割合になります。

3 実質公債費比率

標準的な収入に対する借金返済の負担割合

健全

標準的な収入における地方債(国や銀行などからの借入金)の返済額などが占める割合を示した指標です。

家計簿に例えると、住宅ローンなどの返済額が収入に占める割合になります。

4 将来負担比率

標準的な収入に対する将来の実質的な債務などの負担割合

健全

標準的な収入における今後負担することになっている負債額などが占める割合を示した指標です。

家計簿に例えると、住宅ローンの残高が現在の収入に占める割合になります。

●平成28年度決算に基づく資金不足比率

企業会計・特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
水道事業会計	—	20.0%
市立芦別病院事業会計	13.9%	20.0%
下水道事業特別会計	—	20.0%

※資金不足比率がない場合は「—」と記載しています。

資金不足比率

公営企業会計の事業規模に対する赤字額

市立芦別病院事業会計 13.9%
他の会計は資金不足なし

毎年の事業収入に対して現金がどのくらい不足するのかを示した指標です。

家計簿に例えると、世帯主以外の家族一人一人の収入に対する赤字額の割合です。